

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01411

研究課題名（和文）近代日中両国における「資本主義論争」の生成と展開

研究課題名（英文）On the controversy over contemporary capitalism in modern Japan and China

研究代表者

武藤 秀太郎（MUTO, SHUTARO）

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：10612913

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果として、2022年4月にミネルヴァ書房より学術書『島田三郎 判決は国民の輿論に在り』を刊行した。この著書では、本研究対象である資本主義論争の淵源となる初期社会主義について、おもに第5章で考察をおこなった。

また、2023年8月に慶應義塾大学出版会より学術書『中国・朝鮮人の関東大震災 共助・虐殺・独立運動』を刊行した。本書の中で、日中の資本主義論争に大きな影響をおよぼした1910年代から1920年代にわたる社会・思想状況について、具体的な検討をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1920年代末から1930年代にかけて展開された「日本資本主義論争」と「中国社会性質論争」「中国社会史論争」は、いずれも国名が冠せられていることもあり、これまでもっぱら一国的な枠組みから分析がなされてきた。これに対し、本研究は初期社会主義運動における人的ネットワークなどをもとに、日中両国の「資本主義論争」にみられた相互関連性の具体的な実相を明らかにした。こうした日本と中国の「資本主義論争」は、両国にまたがって起きた一連の思想運動にほかならない。従来の一國史観をのりこえ、トランスナショナルな新しい東アジアの思想史（intellectual history）像を提示した。

研究成果の概要（英文）：I published the academic book titled 'Shimada Saburo' in April 2022. The chapter 5 of this book focuses on the early Japanese socialism, which had become the roots of the controversy over contemporary capitalism in modern Japan and China.

I also published the academic book titled 'Chinese and Korean people in the Kanto earthquake (Chugoku Chosenjin no Kanto Daishinsai)' in August 2023. This book analyzes the social and intellectual situation during 1910-1920's, which affected the controversy over contemporary capitalism in modern Japan and China.

研究分野：思想史

キーワード：資本主義 社会主義

1. 研究開始当初の背景

1920年代、日本と中国では、ロシア革命をはじめとした世界情勢の変化を受け、マルクス主義の影響力が急速に拡大した。1922年7月には、コミンテルンの後ろ盾のもと、日本共産党が結成された。教育機関においても、東京帝国大学を皮切りに、京都帝国大学や早稲田、慶應義塾など、全国の大学・高等学校で社会科学研究会が誕生し、それを統括する学生社会科学連合会が組織された。この表看板にかかげられた「社会科学」は、ほとんどマルクス主義と同義であった。

中国でも「民主」と「科学」をスローガンにかかげ、五四新文化運動をリードした雑誌『新青年』が1918年10月、李大釗の論説「Bolshevismの勝利」を掲載した。この論説はタイトル通り、ロシア革命で政権を掌握したレーニン率いるボルシェヴィキの功績をたたえ、マルクス主義を追究すべき真理として紹介したものであった。さらに『新青年』は、第7巻第6号(1920.5)で「労働節記念号」を組んだ。この号は、すべての論説がマルクス主義に関する内容であった。北京大学にも、李大釗の主導のもと「マルクス学説学会」が結成され、「マルクス主義経済学概論」という講座が開設された。1921年7月には、コミンテルンの指導を受け、『新青年』を主宰した陳独秀と李大釗が中心となり、中国共産党が誕生している。

このようにマルクス主義が知識人の間で席卷し、社会を総合的に把握する分析的枠組みとして支配的な地位を占めてゆく中でくりひろげられたのが、日本の「日本資本主義論争」であり、中国の「中国社会性質論争」「中国社会史論争」であった。これら日中両国の「資本主義論争」については、日中両国で数多くの研究が積みかさねられてきた。ただ、そのほとんどが、それぞれの論争内に考察対象が限定されているといわざるをえない。日中両国の「資本主義論争」は、ほぼ同時期にくりひろげられたこともあり、双方の類似性が指摘されるものの、実際の関連性に関しては、ほとんど検討がなされてこなかった。しかし、私見では、この日中「資本主義論争」は、相互に密接なつながりを有していた。その関連性を無視しては、これら論争の本質も理解することができない。本研究は、別個にとらえられてきた日中両国の「資本主義論争」を、一つのまとまりをもったものとして、統一的に把握することを目指した。

2. 研究の目的

本研究が考察対象とする「日本資本主義論争」と「中国社会性質論争」「中国社会史論争」は、いずれも国名が冠せられていることもあり、これまでもっぱら一国的な枠組みから分析がなされてきた。たしかに、論争における直接の当事者をみると、「日本資本主義論争」は日本人、「中国社会性質論争」「中国社会史論争」は中国人研究者に限られている。しかし、より大局的な見地からながめた場合、日中双方の論者は、互いの研究成果や論争内容に着目し、自らの主張へと積極的に援用していたことが分かる。

本研究は、こうした問題意識のもと、日中両国の「資本主義論争」にみられた相互関連性の具体的な実相を明らかにすることを目的とした。具体的には、これら日中両国の「資本主義論争」にみられた相互関連性について、本研究では(1)20世紀前半において日本への留学経験があったり、日本の知識人と交流をかわしたりした論争の当事者たちが、日本のマルクス主義や歴史学研究を受容し、中国社会をどのように解釈したのか、(2)山田盛太郎や平野義太郎といった講座派の論客らが、中国の研究動向をふまえて、中国社会をどう分析したのか、(3)論争後に日中両国で展開された農村を中心とした復興運動において、いかなる思想的交流があったのか、の3点を中心に考察をおこなった。

3. 研究の方法

本研究では、国会図書館や東京大学経済学部図書館、一橋大学図書館、龍谷大学図書館、専修大学図書館、上海図書館、北京大学図書館、復旦大学図書館、北京国家図書館などで、本研究の核となる資料調査・収集をおこなった。また、「日本資本主義論争」「中国社会性質論争」「中国社会史論争」に関わる一連の論説・関連文献を日中両国で渉猟し、データ整理をおこなった。山田盛太郎や平野義太郎、王学文、陶希聖、梁漱溟など、本研究で焦点をあてる人物の遺稿や書簡などの未公開資料に関しても、上記の図書館などで閲覧し、一部の翻刻につとめた。

日中の「資本主義論争」について研究している国内外の専門家とも、定期的に研究会など通して意見交換をおこない、本研究のブラッシュアップをおこなった。とくに、台湾の中央研究院の近代史研究者らと、2023年8月に国際シンポジウムを開催し、資本主義論争が与えた台湾への思想的影響について議論した。

本研究は本来、中国での現地調査が不可欠であるが、今回のコロナ・ウイルスの影響により、渡航がなかなか予定通りにおこなえなかった。その代替策として、華中師範大学や華中科技大学をはじめとする研究者と、ZoomやWe Chatなどのソーシャル・ネットワーク・システムを通じ、本研究に関する情報交換をおこなった。また、本研究に必要な中国語文献資料などについても、中国の大学を通じて海外発送してもらうなどして補った。

4. 研究成果

2021年度は、2021年7月におこなわれた東アジア近代史学会大会のシンポジウム「大戦間期の東アジアにおけるメディア」で、コメンテーターをおこなった。本研究の対象である日中両国の資本主義論争も、大戦間期に雑誌メディアを通じておこなった出来事である。その成果は、学会誌『東アジア近代史』第26号(2022年6月)にまとめられた。2021年9月には、福沢諭吉協会土曜セミナーで、「堀江帰一と張公権」と題した報告をおこなった。堀江と張は、日中経済思想の交流を考える上で、非常に重要な人物である。2人にみられる密接な学術的関係性は、その後の資本主義論争へと受け継がれていったと解釈できる。この報告内容は、会誌『福沢諭吉年鑑』第49号(2022年12月)に掲載された。2021年10月には、京都・法然院でおこなわれた河上肇記念会主催の講演会で、「河上肇と中国知識人」と題した報告をおこなった。マルクス主義を論じた河上の著作が、李大釗や陳啓修をはじめとした中国人研究者にどう受けとめられたかについて考察した。この講演内容は、2021年3月に出された『河上肇記念会会報』第126号に掲載された。

2022年度は、2022年4月に著書『島田三郎 判決は国民の輿論に在り』をミネルヴァ書房から刊行した。島田は『社会主義概評』(1901)を著すなど、日本に社会主義・マルクス主義を紹介した先駆的な人物として知られる。『社会主義概評』は中国語にも翻訳された。中国に社会主義思想を伝えた最初期の文献である。2022年9月には、明治大学で開かれた国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」に参加し、1920-30年代にみられた日本と中国の経済学者の交流について報告をおこなった。その報告内容「中国銀行改革と留日学生」は、2023年3月に明治大学の『大学史紀要』第29号で公表した。2022年11月には、日本史研究会近現代史部会大会共同研究報告反省会で報告をおこなった。この共同研究報告では、宮崎龍介と高津正道を中心に、1920年代における東アジアの社会問題が論じられた。宮崎と高津は社会主義の洗礼をうけるとともに、積極的に海外へ目を向け、中国人や朝鮮人と交流を交わした。いわば日本資本主義論争の前段階にあたる思想状況について、各研究者との意見交換を通じ、知見を深めることができた。

2023年度は、2023年8月に著書『中国人・朝鮮人の関東大震災 共助・虐殺・独立運動』を、慶應義塾大学出版会から刊行した。関東大震災の勃発は、日本および中国でマルクス主義が広く伝播し、学生・労働者から広く支持をうけるようになる大きなきっかけの1つとなった。本著では、コミンテルンが東アジアにおける革命戦略から日本、中国、朝鮮の共産主義組織に資金を提供し、機関誌などの発行を支援していた実態を明らかにした。2023年12月には、都市史学会大会シンポジウム「大災害の記録と記憶」で本書の内容をもとにした報告「東アジアからみた関東大震災」をおこなった。2023年5月には、日本経済思想史学会第34回全国大会の共通論題「日本経済思想史研究の課題と展望 日本経済思想史学会創立40年を迎えて」で、「大正デモクラットと経済思想 黎明会を中心に」と題した報告をおこなった。2023年8月には、日本経済思想史学会と台湾中央研究院の共催でおこなわれた国際シンポジウム「台日国際學術交流會」で「胡適與朝河貫一」と題した報告を中国語でおこなった。2023年11月には、東北大学大学院国際文化研究科が主催した国際シンポジウム「中国ナショナリズムと近代日本の知識人たち 李大釗と吉野作造」で、「李大釗と日本の知識人たち」と題した報告をおこなった。また、12月に第10回石橋湛山研究学会で「石橋湛山と中国」と題した報告をおこなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 巻 728
2. 論文標題 近現代史部会共同研究報告を聞いて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 41-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 巻 70巻1号
2. 論文標題 アジア研究の過去と未来	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 123-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11479/asianstudies.as24.si06	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 巻 728号
2. 論文標題 近現代史部会共同研究報告を聞いて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 41-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 巻 70
2. 論文標題 アジア研究の過去と未来	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 123 ~ 128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11479/asianstudies.as24.si06	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 巻 26
2. 論文標題 「《特集》大戦間期の東アジアにおけるメディア」コメント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア近代史	6. 最初と最後の頁 82-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 巻 49
2. 論文標題 堀江帰一と張公権	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福沢諭吉年鑑	6. 最初と最後の頁 93-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 巻 29
2. 論文標題 中国銀行改革と留日学生	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学史紀要 (明治大学)	6. 最初と最後の頁 86-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武藤秀太郎	4. 巻 126
2. 論文標題 河上肇と中国知識人	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 河上肇記念会会報	6. 最初と最後の頁 14-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 15件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 大正デモクラットと経済思想 -黎明会を中心に
3. 学会等名 日本経済思想史学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 討論「四報告をうけて」
3. 学会等名 アジア政経学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 胡適與朝河貫一
3. 学会等名 台日國際學術交流會（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 李大釗と日本の知識人たち
3. 学会等名 国際シンポジウム「中国ナショナリズムと近代日本の知識人たち 李大釗と吉野作造」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 石橋湛山と中国
3. 学会等名 石橋湛山研究学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 東アジアからみた関東大震災
3. 学会等名 都市史学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 討論「四報告をうけて」
3. 学会等名 アジア政経学会2023年春季大会 共通論題「日本のアジア研究の遺産と展望」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 胡適與朝河貫一
3. 学会等名 台日國際學術交流會（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 関東大震災と国際支援 中国を中心に
3. 学会等名 第17回INAF研究会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 関東大震災と王一亭
3. 学会等名 第196回 アジアンフォーラム(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 李大釗と日本の知識人たち
3. 学会等名 国際シンポジウム「中国ナショナリズムと近代日本の知識人たち 李大釗と吉野作造」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 石橋湛山と中国
3. 学会等名 第10回石橋湛山研究学会大会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 東アジアからみた関東大震災
3. 学会等名 2023年度都市史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 中国銀行改革と留日学生
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 日本史研究会近現代史部会大会共同研究報告について
3. 学会等名 日本史研究会近現代史部会大会共同研究報告反省会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 堀江帰一と張公権
3. 学会等名 福澤諭吉協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武藤 秀太郎
2. 発表標題 河上肇と中国知識人
3. 学会等名 河上肇記念会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 武藤 秀太郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 338
3. 書名 島田三郎	

1. 著者名 武藤秀太郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 372
3. 書名 中国・朝鮮人の関東大震災：共助・虐殺・独立運動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------